

子ども向きノンフィクション刊行!

# ありがとう 実験動物たち



笠井憲雪・監修 太田京子・著

なぜ、動物実験は必要な?  
 わたしたち人間は、  
 実験動物たちのおかげで  
 健康なからだを保っています。  
 その動物たちの毎日を  
 けんめいに支える人たちがいることを  
 子どもたちにも知ってほしい!  
 という願いをこめておくる  
 ノンフィクション。

このノンフィクションの主人公である、動物実験施設で働く末田さんは「実験動物ブタの福祉のための看護的飼育管理の考察」で、文科省による「創意工夫功労者賞」を受賞した女性です。



※付録 なぜ、動物で実験をするの? (笠井憲雪)



SPFラット飼育室

日本では、このマウス（和名：ハツカネズミ）やラット（和名：ドブネズミ）たちが、実験用に使われる動物の数の90%以上を占めています。  
 実験用のマウスたちは、衛生上、きびしく管理されています。  
 実験には、ふつう、病気のもととなる病原微生物（動物に病気を発症させる細菌やウイルス、寄生虫などをいい、ここでは「病原体」とよみます。）をもたない「SPFマウス」と呼ばれるマウスが使われます（一般的に実験に使われるマウスやラットは外界から隔離され、99・9%以上の病原微生物が除去された空気が供給されている）

「ここでは「テル」と呼ぶことにしましょう。実験に使われる動物たちの世話をするのが、彼女の仕事です。施設に勤めて初めて担当することになったのは、マウスたち。今朝もマウスが待っている飼育室へと急ぎます。」

※マウスさんのお世話

第1章

実験動物との出会い

- 定価/本体 1300 円+税
- 対象/小学校高学年～
- A 5・144ページ
- ISBN 978-4-265-08309-1



岩崎書店

〒112-0005 東京都文京区水道 1-9-2  
<http://www.iwasakishoten.co.jp>

※お近くの書店でお求めください。

